

大城ひかるのベトナム



通信

-16-

シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ



何もなかったシンプルキッチンがホーチミン沖縄県人会はじめたくさんのご厚意で充実（筆者撮影）

「不便を楽しもう」と思っていた私のベトナム暮らしですが、在ホーチミンの皆さまのご厚意で、はからずも快適になっ

ていきました。住み始めて2か月では生活に必要なものはほとんどそろっていました。お礼のつもりで私は県人会のラ

イングループに「おかげ様で、部屋の中がかなり充実しました。本当にありがとうございます」と報告したのですが、当時のメンバー24人が全員既読スルー。どうやら私のシンプルキ

ッチンは日本人にはドン引きだったようです。情熱が足りずに、まだ入手していないものもあります。エアコンです。日中は職場にかなり強めにエアコンが入っていますし、夜冷え切った体で帰宅することも多いので、家では扇風機で十分なのです。寝苦しい夜も確かにありますが、それも年に数日のこと。耐えられないほどではありません。社内の日本人で部

今日の生活は皆の「おかげ様」

屋にエアコンがないのはおそらく私だけで、エアコンがないというと、全員に「沖縄人だねえ」と言われます。勝手にこんなところで沖縄代表になつてしまい、県民の皆さまには申し訳なく思っています。

「快適ではない生活」のもう一つがネズミです。通勤時にバイクにひかれたネズミを見かけたことはあったのですが、まさか自分の部屋にも出没するとは思っていませんでした。思い出してみても、最初のうちはいなかったはずで、コロナのために周辺の飲食店が軒並み閉店したあたりから出始めたのではないかと思います。食料に困ったネズミたちが我が

家にもやってきたのでしようか。夜中に台所から音が聞こえてきたかと思うと、翌朝には食パンやインスタントラーメンがcaじられていました。

大家に話すと、粘着タイプのネズミ捕りシートを数枚分けてくれました。シンクの下やふろ場、ベッドの下などに置いておいたら、翌日はかかっています。さすがに自分では撤去できないので、大家を呼ぶと、彼は「赤ちゃんネズミ」と英語で言いながら片付けてくれるのでした。その夏はネズミシートが品切れでなかなか手に入らず、学生が探してきてくれたこともありましたが、コロナの終焉とともにネズミが現れることはなくなりました。

ロックダウン直前、会社が日本人のために食料を届けてくれたのですが、その中に頭付きの鶏が1羽入っていました。触るのも怖かったので、大家に託しおいしいベトナム料理を作ってもらいました。最初のうちこそ、部屋を出るたび鍵をかけていたのですが、今ではごみ出しなどちょっとした時には鍵を持たなくなりました。大家は大家で、家族旅行で数日いなくなることもありませんが、どの部屋も開けっ放しで警戒心はゼロです。コロナに感染した時もチャットで知らせたら、薬と食料を買ってきてくれました。「住めばみやこ」と言いますが、私の今日の生活があるのは、このようなたくさんの人の親切のおかげなのです。

ご意見・ご質問をお聞かせください。oshiro@kaizen.edu.vn